

お元気ですか

南 恵子

です

発行責任者 **日本共産党品川区議会議員 南 恵子** 八潮5-12-65-503

メールアドレス minami@jcp-shinagawa.com

ニュースを読んでご
意見をお寄せ下さい。

区議会議員

南 恵子

TEL 3790-1523



子どもにとって いじめのない学校づくり

安全で安心して過ごせる学校に

学校教育においてどんな「大切」があろうと、子どもの命が一番大切のはず。学校は子どもにとって安全で安心して過ごせる場所にするのを再認識して取り組みます。

子どもにとって

安全で安心して過ごせる
学校に

本来、学校は子どもにとつて最も安全で安心して過ごせる場所のほずです。そういう環境を守ることが学校と教育委員会の側に求められます。

ところが、いじめの日常化、友人関係に緊張やストレスを感じ心を通わせ本音で話せる友人がいらない現状だということです。

これでは、子どもはもちろん親にとつても余りにも不当で、学校に通わせられないという気持ちになってしまうのではないでしようか。

一刻も早く改善させて、学校が楽しい場所になり、たくさんの方の友人をつくり、ゆたかな生活が保障できるようにさせなくてはなりません。

そのために、子どもの置かれている現状をリアルにつかんで取り上げていきたいと思

います。

自殺した区立中学1年生男子生徒のご遺族が被害届を提出
区教委は「ご遺族の「知りたい」に真摯に応えたのか

大事な子どもを自殺により失ってしまったご遺族にとつて、わが子がなぜ自殺したのか、学校の中でどのような状況にあったのかなどの理由を知りたいのは当然です。むしろ「知る権利」があると思

品川区立中学校で起きたいじめによる自殺で、区教委は直後に立ち上げたいじめ等調査対策委員会に遺族を委員として加えました。いじめの実態などの調査に直接触れる機会を確保したことは、遺族の知る権利を受け止めたのだとおもいます。しかし、報告書は、いじめがどのように広がったのかと最後の対応についての内容が少なく、報告書と

しては不十分です。

いじめた理由、いじめたくなつた心理などに焦点を当てて説明をなせしないのか、それなしには再発をとめられませんか。

ご遺族は1月31日に被害届を警視庁に出しましたが、その理由を「いじめの一部は誰がやったか特定されなのまま自分がやったことの重大さを認識し、罪を償ってほしい」と報道でいっています。

調査対策委員会の調査は、ご遺族がわからない部分の説明がされていないので、ご遺族の要望は満たされていないのだと思います。

区教委は真摯に応えていないと感じますがいかがでしょうか。



大津市いじめ自殺事件の調査報告書を読んで

より所となり、報告書を完成させることができました。

2011年10月に中学2年生の男子生徒が自殺した大津市いじめ自殺事件は、事件発生から10ヶ月後の2012年8月によくやく第三者調査委員会が立ちあげられました。

委員は、弁護士、学識経験者、臨床心理士などからなる6人の構成で生徒への聞き取り（保護者の付添い）を30回も行つてまとめられました。

調査に当たつて大事にしたことは「今後、若い人が自ら命を絶つてしまうことが起こらない社会をつくる」という意志を明確にしたのです。生徒たちに辛い話をしてもらうので、聞き取りの場を、事実の追及だけでなくズタズタになつた子どもや先生の心を癒

す場にしたと位置付けて行つたといいます。緊張していた子どもも最後には「聞いてくれてありがとう」という言葉が出たといいます。

南が感動したのは、調査に当たつて生徒への配慮を示したのよりに述べていることです。「A君の死を防げなかつたことに対する自責の念や同級生の行為を告発することに

なることへの抵抗感といった感情の中で、一生懸命アンケートを書いているみなさんの姿が思い浮かびました。「みなさんが勇気を奮つて事実を語つたことをどうか誇りに思つてください。」「A君についてはみなさんが事実を語ってくれたために、それが解明の

みなさんの語つた事実は多くの教訓や再発防止策の提言につながりました。」と書かれている点です。

辛いけれど自分の取つた行動を振り返ることによって、自分と集団の中にいる自分、その周りを見つめられるようになり、それが今後の生き方につながるのではないかと思います。

よく、警察に任せよと聞きますが、警察の捜査は生徒が事実を語ることへの尊敬がなく犯罪者扱いですから、学校で起きた問題の解決は大人の側の真摯に向き合おうとする毅然とした姿勢で取り組むべきだと痛感しました。

生活・雇用・子どもとど・教育など何でもお気軽にご相談ください

連絡先 南恵子区議会議員 電話(37990)1523